

(絶対受かりたい人へ)
「直前期の勉強のコツ」 ガイダンス

直前期の勉強のコツ（４月に入る頃～の勉強について）

●日々の学習編

1. 択一勉強素材は何をやる？（まだ完全に決まっていない人用）

- (1) 択一過去問（民法、民訴法、民保法、司書法、供託法、不登法については特に推奨。）
- (2) 答練、模試、問題集等の新作問題
- (3) 講座テキスト

2. 4月以降は、ガツガツ暗記したほうが効率がいい。

⇒「理解してから覚える」という作業は、3月までにやっておくべきこと。
今からそれをやるつもりなら、来年合格を目標にすべき。

⇒「ここはよく分からない！仕方がない！過去問肢を丸暗記して済まそう」という人のほうが実力の伸びが早い。もちろん、「ある論点について、問題の処理方法が分からないから参考書を読んで理解しておく」という勉強はOK。

※どこまで突っ込んで勉強するかを目安としては、「(過去問・模試等の解説を読んで理解できない箇所があった場合)手持ちの参考書を調べてみて、そこに載っていなければそれ以上は諦める」程度でいいです。

※「目の前にある問題を、そのまま吸収していく」という勉強を超えて、「この問題が角度を変えて出題されたらどうしよう(汗)」と悩む暇は、皆さんにはもうありません。

3. 自分なりの勉強スケジュールを立てる。(フルタイムの仕事をしている人等、時間のない人は、睡眠を削ってでも、食事時間を削ってでも、実行する。)

⇒直前期は、焦りがある分、3月までとは比較にならないほど集中力が増す時期です。この時期の時間は、大切に使って下さい(使い切して下さい。)

※人生を賭け、命を懸けてやらなきゃ、とても受からない試験です。この時期は、普通の人の生活をしていたら、まず本試験までに間に合いません。

● 答練・模試編

1. 受講する理由を考えてみる。「学校に通う」こと自体に意味はないです。

参考までに…

＜受験生時代の私が模試を受講した理由＞

- (1) 記述式の新作問題を集める
- (2) 過去問学習で対応しきれない箇所の問題を集める（憲法・商法・不動産登記のオンライン申請等）。
- (3) いろいろ試しながら、自分に一番合った時間配分を見つけ出す。
- (4) いい問題（過去問をうまくアレンジした、本試験に出そうな問題）を見つけたらストックして、自分の過去問（又は弱点ノート）に「こういう出題方法も考えられる」とメモしておく。

※「（周囲の友人がみんな受講しているから）なんとなく受講しないと不安」という理由で答練を受講する人は、受講しても意味がありません。目的意識なく答練を受講しても、予備校にお布施をするだけで終わってしまうので、やめておいたほうがいいです。

2. 自分なりに受講方法をアレンジしてみる。「マジメに受講する」こと自体に意味はないです。

＜受験生時代の私の模試の受け方＞

- (1) 午前科目、午後科目とも、わざと30分遅刻して受験してみる。
⇒試験時間が30分足りないと、常に「時間が足りない！」というパニック状態で受験することになります。パニック状態の疑似体験ができるので、かなりおすすめです。
- (2) 受験しながら、各問題の正答率を現場で予想してみる。
⇒ある程度正確に出来るようになると、本試験での「捨て問の選択」をする能力が飛躍的に伸びます。

3. 受講後、必ずその日のうちに復習を終わらせる。「全部マジメに復習する」と効率が悪い時があります。

⇒翌日は絶対に使わない。答練問題をこなすのに、そんなに時間を使っていられない。

⇒悩んで復習に時間を使いそうな問題があったら、いったんストックしておいて、後で落ち着いてからしっかり見てみる。

●本試験当日の戦い方

1. 時間配分はどうする？

私のやっていた方法

午前の部（2時間の時間配分）

①アタマから解く。まずは「複雑な事務処理を要する問題（共同抵当の計算問題等）」や「推論問題（学説問題）」を飛ばしながら、1時間半でひと通り解ききる。

②残り30分の使い、飛ばした問題を解く。

※問題を飛ばす際には、必ず、「マークシートに△印」を付けていました。

午後の部（3時間の時間配分）

①記述商業（1時間目安）

②記述不動産（50分目安）

③択一（1時間10分目安）

2. 択一を速く解くコツ

解答を出すのに不要な肢は「絶対に読んではいけない！」を徹底していた。

●その他

1. 過去問はどう使う？

択一過去問は全ての受験生が目を通して教材

⇒解けないモノが1肢でもあれば本試験対策として不足

※本試験でいわゆる「過去問の焼き直し問題」が出題された際に、「他の受験生には解けるけど自分だけが解けない」という弱点になってしまう。

⇒できれば、過去問は、4～6月で3回回せればベスト。

2. 過去問を回す際のコツ（過去問集の解説は、全部読まない。）

⇒本試験で問われているのは、結局「肢の正誤」のみ。司法書士試験に論文試験はない！

⇒問題文を見て、解答（と、解説中のキーワード）さえ思い出せば本試験の問題には対応できる。つまり、問題文と解答だけをひたすら頭に残していく戦法。

※この方法だと、民法過去問1冊を3時間あれば回すことができます。

※もちろん、前提として「3月までに過去問を1周以上回していること」が必要です。